

43	熊本県立ひのくに高等支援学校	R2～R6
----	----------------	-------

令和6年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

小学校等の教科の目標・内容を取り入れた特別支援学校（知的障害）における効果的な指導に関する研究開発

2 研究の概要

「特別支援教育部会における審議の取りまとめ」で、「学校種別にかかわらず、各教科の目標・内容を一本化する可能性」の検討が求められた。このことを踏まえ、本研究では、特別支援学校（知的障害）において教科別の指導を主体とした教育課程を編成し、一部の教科の指導を小学校、中学校又は高等学校（以下、小学校等とする）の各教科の目標・内容により実施することを試みる。その際、個々の生徒の知的障害の状況等により、小学校等の内容を同等の時間数で扱うことに困難が予想されるので、全体的な指導計画のもとに必要な時間数の確保や自立と社会参加に向けた具体的な指導内容の設定を行うことにする。

その際、主たる教材として検定済教科書を使用するとともに、生徒の実態等に応じた教材を準備して学びの深まりを図る。また、評価については、「学習評価に関する通知（30文科初第1845号）」を踏まえ、個別の指導計画や通知表における観点別の学習状況の評価を検討する。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

小学校等の教科の内容を踏まえた目標達成を目指し、検定済教科書を効果的に活用しながら指導方法及び学習評価を工夫することによって自立と社会参加に向けた教育課程が編成でき、小・中・高等学校と特別支援学校との学びの連続性が確保できるのではないかと。

本校生徒の障害の状況、入学までの学習状況、生活経験等を考慮しながら、社会自立・職業自立という学校教育目標の達成を目指して各教科の目標及び内容を取り扱う教育課程を編成する。本研究においては、数学科について、小学校学習指導要領に示された算数科の目標・内容をもとに、三つの柱に沿った指導目標と指導内容による指導計画を作成し、教育課程を編成する。

また、個々の生徒の知的障害の状況等から小学校学習指導要領に示された算数科の目標・内容を同等の時間数で扱うことに困難が予想されるため、在籍期間を見通した全体的な指導計画のもと適切な授業時数を設定するとともに、見方・考え方を働かせながら取り組む数学的活動により、算数科で育成を目指す資質・能力を養えるように指導し、学習評価及び教育課程の改善を行う。

このことから、自立と社会参加につながる具体的な指導内容や授業時数について検討し、算数科の目標・内容の系統的・発展的な取扱いを目指す。その際、これまでの本校の数学科の指導では自作教材のみで指導を行っていたところを、小学校等の文部科学省検定済教科書（以下、検定済教科書）を主たる教材として用いる。検定済教科書の活用によって、小学校等と特別支援学校との学びの連続性をより確保した教科指導の充実を図る。

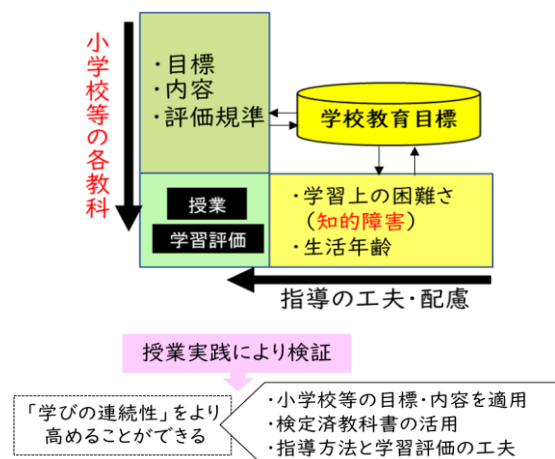


図1 仮説検証のイメージ

(2) 教育課程の特例

- ①知的障害特別支援学校高等部の数学科において、小学校学習指導要領算数科の目標・内容に置き換えた教育課程を編成し、指導計画の作成及び指導を行う。
- ②小学校学習指導要領算数科を適用した数学科については、小学校学習指導要領算数科を基にした観点別学習状況による評価と目標に照らした達成状況の評定を行う。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

数学以外の各教科等は特別支援学校の学習指導要領により教育課程を編成するが、数学のみ小学校学習指導要領（算数）を適用し、目標・内容をすべて替えることで、数学的に考える資質・能力の育成を試みる（図2）。

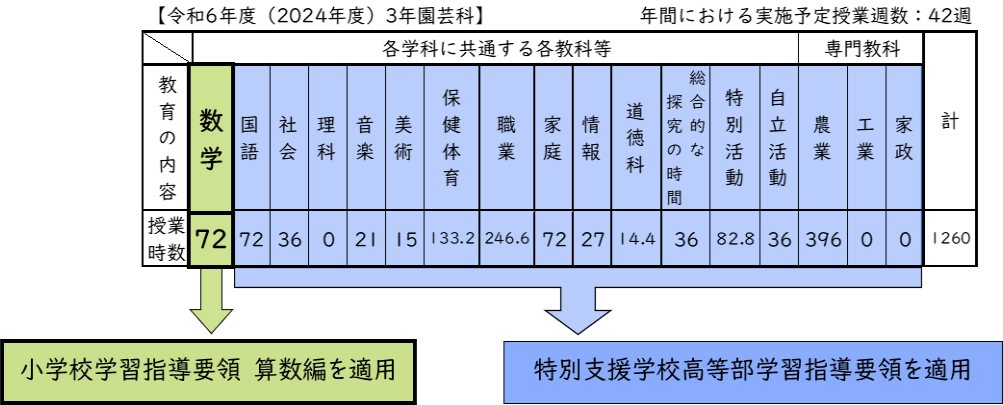


図2 教育課程編成の概要

数学は、高等部1年生で82単位時間、2年生で39単位時間、3年生で72単位時間の計193単位時間を設定する（表1）。なお、2年生の週当たりの単位時間が1時間（年間39単位時間）と他学年と比較して約半数であるのは、3年次の進路決定に繋げることを意図し、職業人として必要な資質・能力の育成に重点を置き、専門教科の授業時数を年間507単位時間としているためである。

本校生徒の数学の学力は、概ね小学校3・4年生程度を有していると分析しており、次の段階である小学校4・5年生の目標・内容を扱う。これは特別支援学校学習指導要領の高等部1・2段階に概ね相当するものである。

表1のように、小学校4年生及び5年生の標準時数は175時間である。一方で、本校の授業時数は先述のとおりであり、3年間で、小学校4・5年生の1年間と比べて少し多い程度である。よって、在籍3年間の総授業時数を見据えながら、習熟度別に4グループを編成し、全体計画・年間指導計画を作成した。クローバーグループとハートグループは小学校5年生の算数の内容を、スペードグループとダイヤグループは小学校4年生の算数の内容を在籍3年間で扱えるようにし、併せて、企業等へのアンケート調査で分かった社会からのニーズが高い単元を加えた（図3）。

表1 本校と小学校の授業時数の比較

	小学校 第4学年	小学校 第5学年	本校
授業時数	175 (標準時数)	175 (標準時数)	【内訳】 82(第1学年) 39(第2学年) 72(第3学年)
1単位時間 (分)	45	45	50
総授業 時間数(分)	7,875	7,875	9,650

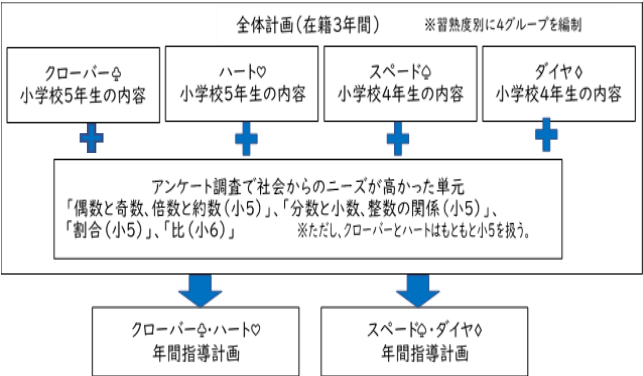


図3 全体計画・年間指導計の構成

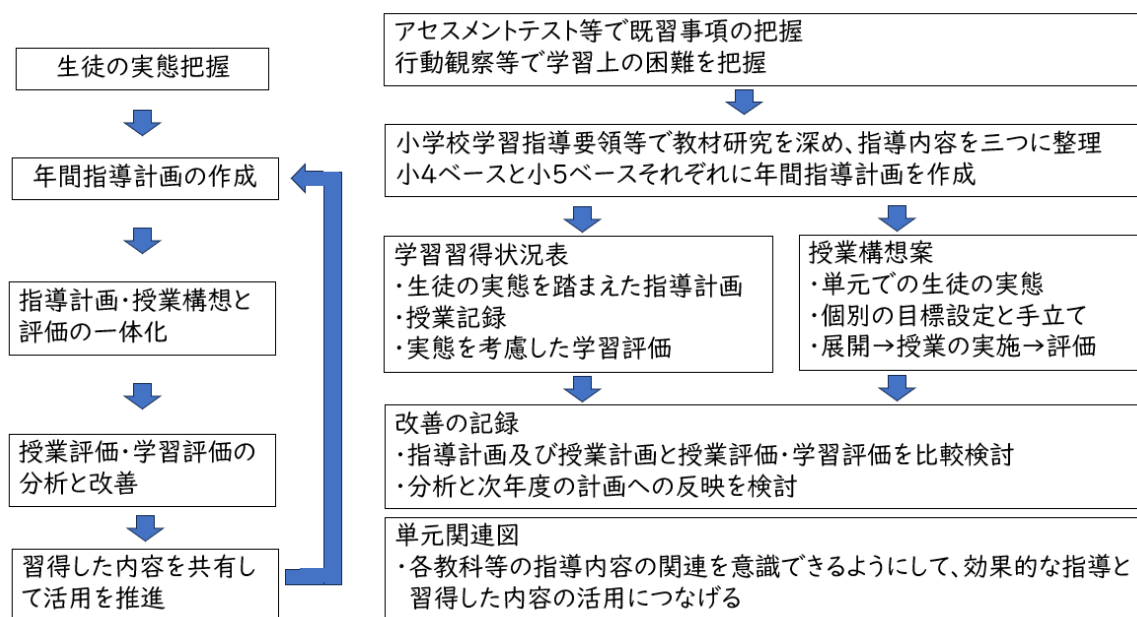


図4 授業実践の全体像

図4は、資質・能力の育成を目指した指導計画の作成と個に応じた授業計画の全体像である。知的障害特別支援学校においても、知的障害に配慮した指導の工夫を指導計画や授業で講じること、小中高等学校の学習指導要領の目標・内容により資質・能力の育成が可能であると考え、改善に向けた検討プロセスとしても位置付けた。

(2) 研究の経過

※下線は年次ごとの重点

	実施内容等
第一年次	① <u>実態把握</u> ・ 単元テスト（アセスメント、単元末）の比較 ・ 習熟度別学習グループの特徴 ・ 学習履歴、習得状況等の把握方法について検討 ・ 総合学力調査の結果に基づく習得状況の分析 ② <u>全体計画・年間指導計画</u> ・ 小4算数の取扱いに関する考察 ・ 単元ごとの指導時数、単元配列に関する検討 ・ 全体計画、年間指導計画の作成 ③ <u>授業実践</u> ・ 研究授業「角の大きさ」「折れ線グラフと表」「わり算の筆算」における成果と課題 ・ 単元テストの実施 ・ 総合学力調査の実施 ④ <u>指導に関するツール</u> ・ <u>学習構想案の書式作成・活用</u> ・ 検定済教科書の活用に関する考察 ⑤ <u>調査</u> ・ 企業等へのアンケート調査「仕事を進めるにあたって必要な数学の力」 【成果】 アセスメントに基づき、4つの習熟度別学習グループを編制し、すべてのグループで小学校4年算数の目標・内容を扱った。習熟度の高いグループの生徒たちにとって小学校4年算数の内容は既に習得している内容が多くあることが分かった。また、生徒の習熟度に沿って授業を進めたため、指導に要する時間が単元ごとに異なり、同じ学年でも各グループの授業進度に大きな違いが生じた。本校独自の指導計画が必要であることが分かり、在籍3年間の数学の総授業時数を見通し、習熟度別学習グループごとに具体的な年間指導計画を作成した。
第二年次	① <u>全体計画・年間指導計画</u> ・ 小5算数と小4算数による年間指導計画の実施 ・ 年間指導計画における指導内容の重点化の取組 ② <u>授業実践</u>

	・研究授業「大きい数のしくみ」「垂直、平行と四角形」「分数」「分数のたし算とひき算」「平均」「直方体と立方体」「割合」における成果と課題 ・単元テストの実施 ・総合学力調査の実施 ・知的障害の認知特性に応じた手立て及び知識・技能の活用に関する考察 ③ 指導に関するツール ・学習習得状況表の書式作成・活用 ・学習構想案の作成・活用 ・検定済教科書の活用（メリット、デメリット）の検討 ④ 調査 ・実態把握（前籍校への聞き取り、心理検査の活用） ・卒業生へのアンケート調査「卒業後における数学の活用状況」 ・寄宿舎指導員等へのアンケート調査「日常生活や余暇生活を充実のために必要な数学の力」 【成果】 2つのグループには小学校5年生、2つのグループには小学校4年生の算数の目標・内容により授業を行い、評価に取り組んだ。授業や指導の効果を、年間指導計画や単元計画に関する記録に照らして評価したところ、「単元における指導内容が過多であった」、「知識・技能に偏重した授業になってしまった」、「数学的活動に十分な時間がかけられなかった」、「より思考力を高める授業にしたい」等の反省があがった。全体計画をもとに作成した年間指導計画であったが、特に単元配置や時数設定に課題が残った。これらを踏まえ、単元ごとの時数や思考力を伸ばす授業について再検討し、年間指導計画にある指導内容を「レディネス」「主となる指導内容」「発展」として整理した。
第三年次	① 全体計画・年間指導計画 ・年間指導計画の評価・改善 ・「改善の記録」作成（計画、実施、達成におけるカリキュラムの比較） ・単元関連図の作成 ② 授業実践 ・研究授業「概数」「分数」「角の大きさ」「平均」「小数のかけ算」における成果と課題 ・単元テストの実施 ・総合学力調査の実施 ・学習履歴や学びの接続に関する考察 ・認知特性に応じた指導上の工夫と手立ての検証 ・教科等横断的な習得成果の活用場面の設定と考察 ③ 指導に関するツール ・学習習得状況表の作成・活用 ・学習構想案の作成・活用、書式改訂（特性への配慮、個別の目標設定、個人内評価の充実） ④ 調査 ・実態把握（前籍校への聞き取り、心理検査の活用） ・卒業生4人＋就労先担当者を対象に「職場で求められる算数・数学の力」及び活用状況について調査 【成果】 指導内容を整理した年間指導計画をもとに単元計画を立て、授業実践を積み重ねた。編成した教育課程を評価するにあたって、習熟度別学習グループごとに学習評価を集約し、年間指導計画の見直しにつなげた。年間指導計画（計画したカリキュラム）と授業の実施状況（実施したカリキュラム）と学習評価（達成したカリキュラム）を比較し、実施と達成の合致はどうか、達成状況が不十分な場合の背景要因について分析を行った。これら分析をとおして、在籍3年間のうちに扱う内容（小学校該当学年＋就労生活に必要なと思われる内容）、単元配置、単元ごとの時数、各単元の指導内容の設定等を評価した。
第四年次	① 全体計画・年間指導計画 ・年間指導計画の評価 ・「改善の記録」作成（計画、実施、達成におけるカリキュラムの比較） ・単元関連図の活用 ② 授業実践 ・代表授業「割合」における成果・課題、資質・能力の育成に関する考察 ・単元テストの実施

	・総合学力調査の実施 ・学習履歴や学びの接続に関する考察 ・認知特性に応じた指導上の工夫と手立ての検証 ・教科等横断的な習得成果の活用場面の設定と考察 ③ 指導に関するツール ・学習習得状況表の作成・活用 ・学習構想案の作成・活用（指導目標と評価規準、学習評価等に関する考察） ④ 調査 ・実態把握（前籍校への聞き取り、心理検査の活用） ・卒業生4人＋就労先担当者を対象に「職場で求められる算数・数学の力」及び活用状況について調査 【成果】 計画、実施、達成におけるカリキュラムを比較することで、指導計画の見直しを行った。また、授業実践によって生活年齢や障害特性に対する指導の工夫や配慮が蓄積され、教科の目標達成に迫るとともに、生徒の粘り強い学びの姿を実現することができた。
--	--

（３）評価に関する取組

	評価方法等
第一年次	① 運営指導委員会による本研究開発検証（６・１１・２月） ・現行教育課程 ・本研究の妥当性と教育課程の特例 ・研究計画と推進体制 ② 生徒の実態把握と学習状況評価 ・総合学力調査 ・単元テスト ・授業進度 ③ 授業評価 ・授業研究会（９月：１年生、１１月：２年生） ・実践報告会（１１月） ④ アンケート調査 ・生徒、保護者、教職員による授業評価
第二年次	① 運営指導委員会による本研究開発検証（６・１１・２月） ・現行教育課程の検証 ・本研究の妥当性と教育課程の特例 ・研究計画と推進体制 ② 生徒の実態把握と学習状況評価 ・総合学力調査 ・単元テスト ・授業進度と年間指導計画 ・学習習得状況表 ・観点別学習状況評価 ③ 授業評価 ・授業研究会（６月：３年生、９月：１年生） ・２年生「数学」実践報告会（１１月） ④ アンケート調査 ・生徒、保護者、教職員による授業評価 ⑤ 実践報告会参加者評価
第三年次	① 運営指導委員会による本研究開発検証（６・１１・２月） ・現行教育課程の検証 ・本研究の妥当性と教育課程の特例 ・研究計画と推進体制 ・「改善の記録」検証 ② 生徒の実態把握と学習状況評価 ・総合学力調査 ・単元テスト ・授業進度と年間指導計画 ・学習習得状況表 ・観点別学習状況評価

	③ 授業評価 ・授業研究会（６月、９月） ・「数学」実践報告会（１１月） ④ アンケート調査 ・生徒、保護者、教職員による授業評価 ・卒業生調査 ⑤ 実践報告会参加者評価
第四年次	① 運営指導委員会による本研究開発検証（６・１２・２月） ・現行教育課程の検証 ・本研究の妥当性と教育課程の特例 ・研究計画と推進体制 ・「改善の記録」検証 ② 生徒の実態把握と学習状況評価 ・総合学力調査 ・単元テスト ・授業進度と年間指導計画 ・学習習得状況表 ・観点別学習状況評価 ③ 授業評価 ・授業研究会（６～７月） ・「数学」実践報告会（１２月） ④ アンケート調査 ・生徒、保護者、教職員による授業評価 ・卒業生調査 ⑤ 実践報告会参加者評価

５ 研究開発の成果

（１）実施による効果

① 生徒への効果

数学の授業実践の効果として、総合学力調査及び評価アンケートの分析を行った。経年で結果を考察し、生徒の学力伸長や習得状況、授業への印象や有用感を本研究の効果として示す。ただし、本校の生徒は授業時数や既習状況等、全国の小学校児童と異なるため、総合学力調査の結果の解釈には留意する必要がある。

ア 総合学力調査

全学年を対象に小４と小５の算数の内容について総合学力調査を実施した（なお、令和３年度は高等部１・２年生のみ小４内容を実施）。表２～表３は令和３年度から令和６年度の総合学力調査の平均正答率を示している。

表２ 観点・領域別平均正答率（小４内容）

		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度	
		本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国
観 点	知識・技能	57.2	72.2	55.3	69.7	58.2	70.9	50.5	66.9
	思考・判断・表現	29.4	43.9	24.2	37.1	24.2	32.5	23.5	38.4
領 域	数と計算	55.4	70.3	49.3	66.6	50.7	65.6	44.3	62.6
	図形	38.9	59.7	44.3	58.3	49.8	63.7	40.7	57.7
	変化と関係	78.4	84.0	75.7	80.4	55.2	60.6	76.2	79.3
	データの活用	38.2	40.2	38.0	45.5	63.2	65.4	32.4	49.0

表３ 観点・領域別平均正答率（小５内容）

		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度	
		本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国
観 点	知識・技能	—	—	31.7	63.3	38.1	66.8	31.9	64.7
	思考力・判断力・表現力	—	—	18.8	48.5	21.9	44.6	7.6	31.4
領 域	数と計算	—	—	21.2	65.4	18.9	56.0	19.0	58.8
	図形	—	—	29.5	58.9	47.6	73.1	35.1	64.2
	変化と関係	—	—	32.5	55.1	28.2	52.2	22.1	48.7
	データの活用	—	—	36.3	62.4	48.7	72.9	27.5	53.0

小4、小5の内容ともにどの年度も本校生徒は観点・領域別の平均正答率が全国平均をすべて下回っている。しかし、落ち込みのある領域や得意とする領域は全国と同傾向にある。また、小4内容の「変化と関係」は全国平均と比較しても±6以内で、大きな差は見られない。一方で、小5内容は、小4内容に比べて平均正答率に大きな開きが生じている。全国と同様に「思考・判断・表現」の低さが顕著であるが、文章読解の負荷など、ペーパーテスト特有の難しさが影響していることも考えられる。

また、高等部3年生は、本研究のもと小学校学習指導要領算数科の目標・内容を適用した数学の授業を受けて3年目になる。以下、高等部3年生について、過去3年間の平均正答率をグループごとに比較した（表4～5）。

表4 平均正答率の推移（小4内容）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減(R4→R6)
クローバー	59.9	69.1	65.1	+ 5.2
ハート	42.9	43.8	49.0	+ 6.1
スPEED	35.3	47.5	47.4	+12.1
ダイヤ	14.3	27.7	26.8	+12.5
全体	40.1	49.5	49.0	+ 8.9

表5 平均正答率の推移（小5内容）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減(R4→R6)
クローバー	40.6	48.4	48.5	+ 7.9
ハート	17.5	28.5	32.8	+15.3
スPEED	19.1	17.3	17.9	- 1.2
ダイヤ	11.9	12.7	12.8	+ 0.9
全体	23.5	30.8	28.3	+ 2.8

小4、小5の内容ともに、どのグループも3年間の平均正答率が上昇している。在籍3年間で内容の習得が進んだことは明らかであり、小学校算数の目標・内容にすべて替えた教育課程においても、授業における教材や指導方法の工夫によって学力伸長が図れることが示された。

イ 評価アンケート

令和3年度は高等部1・2年生、令和4年度以降は全生徒を対象に、数学の授業に対する印象や生活への有用感について、アンケートを実施した。図5は、令和3年度から令和6年度の経年変化を表している。

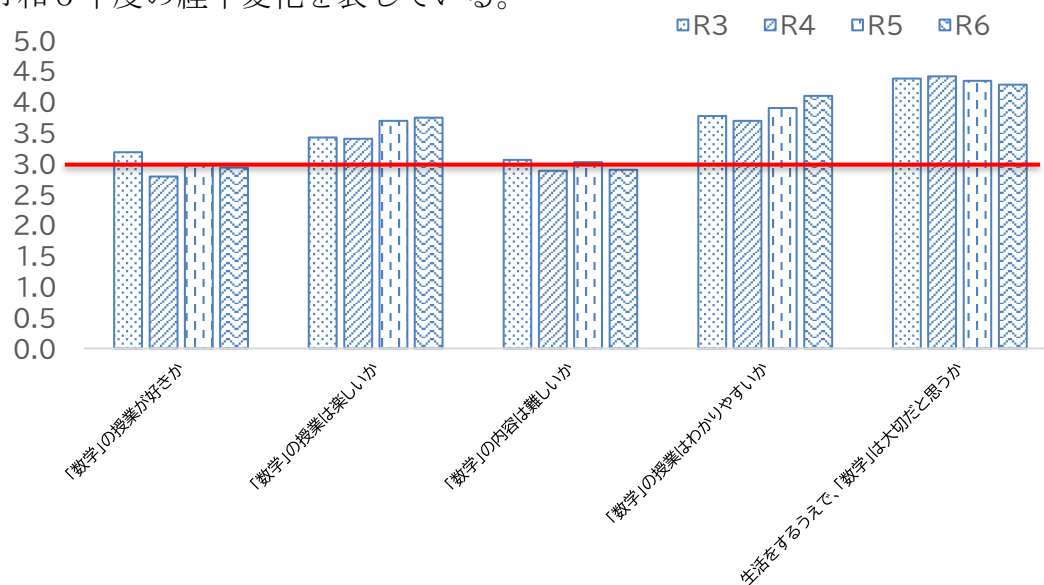


図5 評価アンケートの変化（生徒）

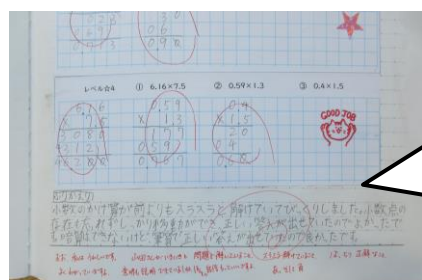
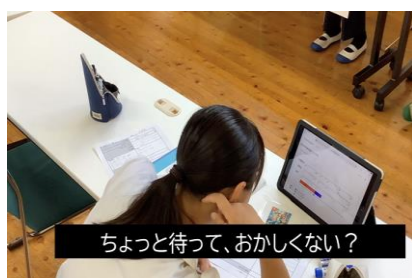
年度によって増減はあるが、数学の授業が「楽しい」「わかりやすい」との回答がすべての年度において3.0以上の高い数値を維持している。教師が生徒の理解度に

合わせて指導方法を柔軟に調整していることの効果であると考える。時間の経過とともに、数学の授業に対する生徒の印象は「わかりやすい」が増加する一方で、自由記述などから特定の単元への苦手意識は継続している。

ウ 粘り強い学びの姿を実現する効果

生徒は授業で、ワークシートを貼り付けながらマイノートを作り、学んだことを記録した。授業中にマイノートを確認する姿が頻繁に見られており、前時までの学習をマイノートで確認することが、本時の学習の理解を深めることに役立っていることが分かる。また、本時の目標の提示を丁寧に行うことで、生徒が考えるポイントを明確にすることや、問題を解く際には考え方のヒントを用意して生徒が自ら活用して考えられるようにすることも粘り強く学ぶ姿を引き出すために有効だった。同じように、ICT教材を操作しながら粘り強く考え、正解を導き出す姿も見られた。また、グループ等で学習課題について話し合う機会を多く取り入れた。授業が進むにつれ考え方が整理され、協働的な学びが生徒の学びを深めるようになった。さらに、より個別の配慮や工夫を行うことも容易になっている。例えば、数直線を描く際に、必要な生徒には手順を示したカードを提示するといった例である。

このように、配慮や手立てにより、数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動において、自ら粘り強く取り組む姿が生まれ、学びの質が高まったと感じている。これには、指導にあたる教員が、小学校学習指導要領解説、検定済教科書と指導書など、小学校算数科で用いられる豊富な資料により、教科の見方・考え方や育成を目指す資質・能力への理解を深め、指導力を向上させたことによるところが大きい。育成を目指す資質・能力への理解が深まり、指導計画や授業が充実することにより、知的障害教育の専門家として、これまでに培ってきた生活年齢、障害特性等への配慮の適用もさらに適切に進められるようになったと考えている。



「小数のかけ算が前よりもスラスラ解けていてびっくりしました。小数点の存在も忘れず、しっかり移動でき、正しい答えが出せてよかったです。暗算はできないけど、筆算で正しい答えが出せているので、よかったです。」

「マイノート」の感想より

上記はある生徒のマイノートに書かれた学習後の感想である。「スラスラ解けた」からは計算速度の向上、「正しい答えが出せた」からは計算結果が合っているという成功体験が読み取れる。「小数点の存在も忘れず、しっかり移動でき」「暗算はできないけど、筆算で正しい答えが出せている」と何ができるようになったのか具体的に認識できた。このように、何が分かったのか、何ができるようになったのかを実感できている様子を多くの生徒から見るできるようになった。

② 教師への効果

全職員を対象に、令和3・4・5年度は12月に、令和6年度は10月に「研究に関する評価アンケート」を実施した。図6は、令和3年度から令和6年度までの経年変化である。

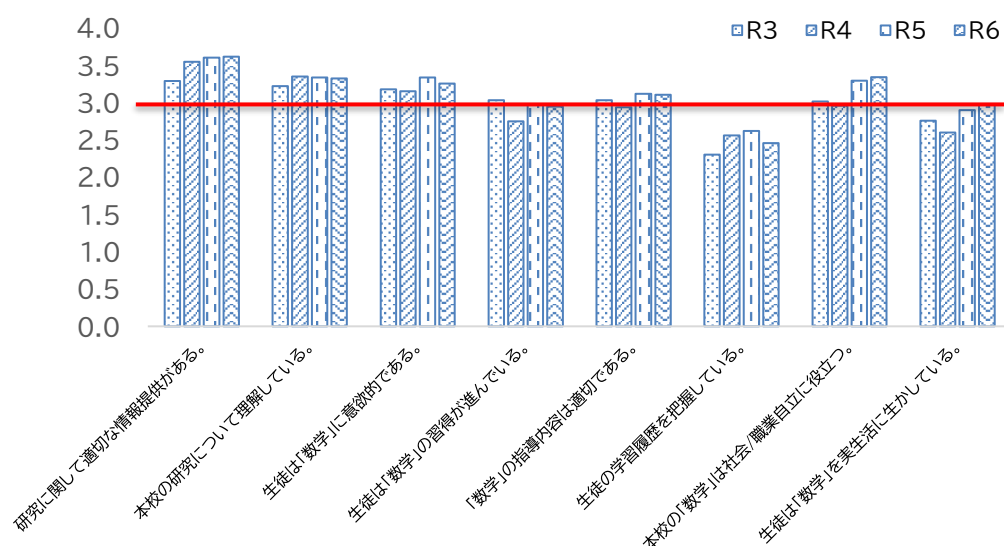


図6 研究に関する評価アンケートの変化（職員）

生徒は数学に「意欲的である」とする回答が、どの年度も3.0を上回っている。令和4年度については、習得の進み具合や指導内容の適切さにおいて数値が低下しているが、他の年度は一定の評価を得ている。令和5年度及び6年度は、「社会/職業自立に役立つ」「実生活に生かしている」との回答が増え、他教科等との関連を意識した授業づくり、活用場面の拡大の効果であると推察する。

また、学校運営上の効果として、授業に関わる教師が指導目標や評価規準を共有することで、共通の判断基準をもって指導に臨むことができ、授業中の支援に過不足のない適切な働きかけができるようになった。検定済教科書や指導書の存在が、教師の教科の専門性を補った。知的障害の高等部段階では、単元づくりや指導内容の設定は授業者に委ねられている。複数人で組織的に検討を行うが、指導内容の偏りや重複は否めない状況がある。系統を重視する算数・数学にとって、指導の順序や題材の用い方を参考にできる検定済教科書の利点は大きく、加えて、教材研究と授業準備の効率化につながるものである。

③ 保護者等への効果

保護者を対象に、令和3・4・5年度は12月に、令和6年度は10月に「研究に関する評価アンケート」を実施した。図7は、令和3年度から令和6年度までの経年変化である。

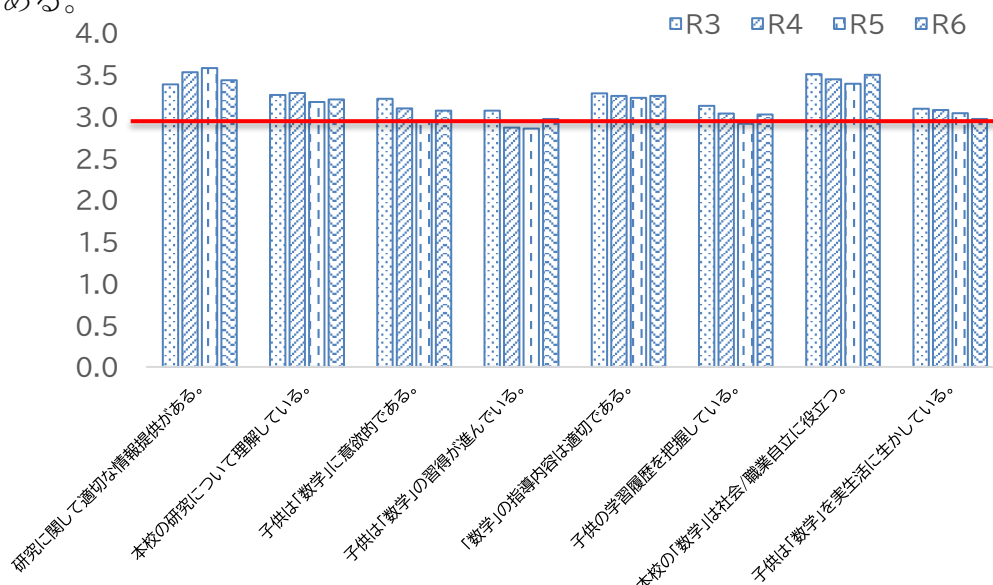


図7 研究に関する評価アンケートの変化（保護者）

「社会/職業自立に役立つ」において非常に高い評価が得られた。自由記述からは、個人の理解度に応じた指導の重要性や指導内容の調整など、具体的な指導方法に関する要望も多かった。実生活や社会での自立に直結する実用的な学習への期待が一貫して見られた。

（２）実施上の問題点と今後の課題

本研究を進めたことにより、知的障害特別支援学校においても、生徒の学習段階に応じた小学校算数科の目標・内容を適用して学習を進めることは可能であり、生活年齢や障害特性に対する指導の工夫や配慮を十分に行うことにより教科の目標達成に迫ることができた。

活用した小学校算数科で用いられる豊富な資料により教科への理解を深められたことは、教員の指導力の向上につながった。そして、指導計画や指導内容・授業が充実したことは、教師が知的障害特別支援学校の教員としてこれまでに培ってきた生活年齢や障害特性などへの配慮を効果的に発揮することにもつながった。しかし、知的障害のある生徒の学習上の困難さは、内容理解の難しさや量感の捉えにくさ、見当を付けることの苦手さなど複合的に生じている。個々の生徒の実態をよく把握して、指導方法や教材の工夫をさらに進めることが重要である。

なお、特別支援学校の教育課程では各教科の指導が位置付けられている。生活に生きる学習となることを目指して指導計画を作成しているが、単に体験的な学習にならずに系統的な学習により資質・能力を育成できるよう、さらなる検討を加えることが必要であると考えます。

このことは、障害のある子供たちも含めた全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現による「令和の日本型学校教育」の構築につながるものであると共に、インクルーシブ教育システムの構築に必要な連続性のある多様な学びの場の整備につながるものと考えている。

熊本市立ひのくに高等支援学校 教育課程表（令和6年度）

【高等部1年】

学級種等（専門学科） 1単位時間：（50分）

年間における実施予定授業週数：（44週）

	学級等		令和6年度入学（高等部1年）					
	教科等	配当時数	指導時数	指導時数の内訳				
				時間における指導	各教科等を合わせた指導における時数			
				生活情報				
教科	国語		82	82				
	社会		41	41				
	数学		82	82				
	理科		82	82				
	音楽		26	26				
	美術		15	15				
	保健体育		151.7	151.7				
	職業		165.85	155.6	10.25			
	家庭		82	82				
	(外国語)							
	(情報)		30.75		30.75			
	専門教科(農業)		92.25	92.25				
	専門教科(工業)		184.5	184.5				
	専門教科(家政)		92.25	92.25				
	特別活動		94.3	94.3				
	自立活動		41	41				
	特別の教科 道徳		16.4	16.4				
	総合的な探究の時間		41	41				
計			1320	1279	41	0	0	0

※校内実習1週間、産業現場等における実習2週間を含む(実習は職業でカウント)。

【高等部2年園芸科】

学級種等（専門学科） 1単位時間：（50分）

年間における実施予定授業週数：（44週）

	学級等		令和5年度入学（高等部2年園芸科）					
	教科等	配当時数	指導時数	指導時数の内訳				
				時間における指導	各教科等を合わせた指導における時数			
				生活情報				
教科	国語		39	39				
	社会		39	39				
	数学		39	39				
	理科							
	音楽		24	24				
	美術		15	15				
	保健体育		144.3	144.3				
	職業		222.15	212.4	9.75			
	家庭		78	78				
	(外国語)							
	(情報)		29.25		29.25			
	専門教科(農業)		507	507				
	専門教科(工業)							
	専門教科(家政)							
	特別活動		89.7	89.7				
	自立活動		39	39				
	特別の教科 道徳		15.6	15.6				
	総合的な探究の時間		39	39				
計			1320	1281	39	0	0	0

※産業現場等における実習5週間含む(実習は職業でカウント)。

【高等部2年工芸科・窯業科】

学級種等 (専門学科) 1単位時間:(50分)

年間における実施予定授業週数:(44週)

	学級等		令和5年度入学(高等部2年工芸科・窯業科)					
	教科等	配当時数	指導時数	指導時数の内訳				
				時間における指導	各教科等を合わせた指導における時数			
				生活情報				
教科	国語		39	39				
	社会		39	39				
	数学		39	39				
	理科							
	音楽		24	24				
	美術		15	15				
	保健体育		144.3	144.3				
	職業		222.15	212.4	9.75			
	家庭		78	78				
	(外国語)							
	(情報)		29.25		29.25			
	専門教科(農業)							
	専門教科(工業)		507	507				
	専門教科(家政)							
	特別活動		89.7	89.7				
	自立活動		39	39				
	特別の教科 道徳		15.6	15.6				
	総合的な探究の時間		39	39				
計			1320	1281	39	0	0	0

※産業現場等における実習5週間含む(実習は職業でカウント)。

【高等部2年クリーニング科】

学級種等 (専門学科) 1単位時間:(50分)

年間における実施予定授業週数:(44週)

	学級等		令和5年度入学(高等部2年クリーニング科)					
	教科等	配当時数	指導時数	指導時数の内訳				
				時間における指導	各教科等を合わせた指導における時数			
				生活情報				
教科	国語		39	39				
	社会		39	39				
	数学		39	39				
	理科							
	音楽		24	24				
	美術		15	15				
	保健体育		144.3	144.3				
	職業		222.15	212.4	9.75			
	家庭		78	78				
	(外国語)							
	(情報)		29.25		29.25			
	専門教科(農業)							
	専門教科(工業)		253.5	253.5				
	専門教科(家政)		253.5	253.5				
	特別活動		89.7	89.7				
	自立活動		39	39				
	特別の教科 道徳		15.6	15.6				
	総合的な探究の時間		39	39				
計			1320	1281	39	0	0	0

※産業現場等における実習5週間含む(実習は職業でカウント)。

【高等部 3 年園芸科】

学級種等 (専門学科) 1 単位時間: (50 分)

年間における実施予定授業週数: (42 週)

	学級等		令和4年度入学(高等部3年園芸科)					
	教科等	配当時数	指導時数	指導時数の内訳				
				時間における指導	各教科等を合わせた指導における時数			
				生活情報				
教科	国語		72	72				
	社会		36	36				
	数学		72	72				
	理科		0	0				
	音楽		21	21				
	美術		15	15				
	保健体育		133.2	133.2				
	職業		246.6	237.6	9			
	家庭		72	72				
	(外国語)							
	(情報)		27		27			
	専門教科(農業)		396	396				
	専門教科(工業)							
	専門教科(家政)							
特別活動			82.8	82.8				
自立活動			36	36				
特別の教科 道徳			14.4	14.4				
総合的な探究の時間			36	36				
計			1260	1224	36	0	0	0

※産業現場等における実習6週間を含む(実習は職業でカウント)。

【高等部 3 年工芸科・窯業科】

学級種等 (専門学科) 1 単位時間: (50 分)

年間における実施予定授業週数: (42 週)

	学級等		令和4年度入学(高等部3年工芸科・窯業科)					
	教科等	配当時数	指導時数	指導時数の内訳				
				時間における指導	各教科等を合わせた指導における時数			
				生活情報				
教科	国語		72	72				
	社会		36	36				
	数学		72	72				
	理科		0	0				
	音楽		21	21				
	美術		15	15				
	保健体育		133.2	133.2				
	職業		246.6	237.6	9			
	家庭		72	72				
	(外国語)							
	(情報)		27		27			
	専門教科(農業)							
	専門教科(工業)		396	396				
	専門教科(家政)							
特別活動			82.8	82.8				
自立活動			36	36				
特別の教科 道徳			14.4	14.4				
総合的な探究の時間			36	36				
計			1260	1224	36	0	0	0

※産業現場等における実習6週間を含む(実習は職業でカウント)。

【高等部3年クリーニング科】

学級種等 (専門学科) 1単位時間:(50分)

年間における実施予定授業週数:(42週)

	学級等		令和4年度入学(高等部3年クリーニング科)					
	教科等	配当時数	指導時数	指導時数の内訳				
				時間における指導	各教科等を合わせた指導における時数			
教科	国語		72	72				
	社会		36	36				
	数学		72	72				
	理科		0	0				
	音楽		21	21				
	美術		15	15				
	保健体育		133.2	133.2				
	職業		246.6	237.6	9			
	家庭		72	72				
	(外国語)							
	(情報)		27		27			
	専門教科(農業)							
	専門教科(工業)		198	198				
	専門教科(家政)		198	198				
	特別活動		82.8	82.8				
	自立活動		36	36				
	特別の教科 道徳		14.4	14.4				
	総合的な探究の時間		36	36				
計			1260	1224	36	0	0	0

※産業現場等における実習6週間を含む(実習は職業でカウント)。

週時程表 (令和6年度)

		月			火			水			木			金			
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
1		特別活動 (全校・学年集会) (8:45～)(0.9)			SHR									LHR(8:40～)(1.0)			
					JT(8:45～)(0.9)												
2	9:40 10:30	数学					保健 体育		保健 体育		保健 体育		音楽/ 美術		音楽/ 美術		
3	10:40 11:30	理科 ①	理科 ②	専門学 科	専門学 科		社会 家庭	専門学 科	社会 家庭	専門学 科	社会 家庭	専門学 科	国語	専門学 科	社会 家庭	専門学 科	
4	11:40 12:30	音楽/ 美術					生活情 報		生活情 報		生活情 報		数学		生活情 報		
5	13:30 14:20	自立活動			理科 ②	理科 ①	専門学 科	国語	社会 家庭	国語	専門学 科	国語	専門学 科	社会 家庭	掃除(0.4)		
6	14:30 15:20	チャレンジ講座			国語		数学	生活情 報	数学		数学		生活情 報		SHR(13:50～13:55)		
					掃除(0.4)												
7	15:25 16:05	委員会活動／道徳 (0.8)			SHR(15:45～15:50)												
					SHR(16:05～16:10)												
下校		16:10			15:50									13:55			
授業時数		6.7			6.3									4.4			

※合計単位時間数30.0時間

学校等の概要

1 学校名、校長名

学校名：熊本県立ひのくに高等支援学校

校長名：山本 信一郎

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地：熊本県合志市合生4360-7

電話番号：096-249-1001

FAX番号：096-249-1102

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(高等支援学校)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	専門学科	32	4	31	4	30	4	93	12
計		32	4	31	4	30	4	93	12

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主任事務長	主幹教諭	指導教諭	教諭	講師	養護教諭	養護助教諭	講師(栄養)
1	0	1	1	0	0	25	13	2	0	1
非常勤講師	スクールカウンセラー	事務職員 学校技師	実習教師	臨時 実習教師	寄宿舎 指導員	臨時寄宿舎 指導員	キャリア サポーター	学校補助員	支援員	計
1	0	3	3	5	7	5	1	1	3	73

5 研究歴

なし